駐在所夫人として地域安全に貢献
小田駐在所・谷享子さんに感謝状

駐在所活動に協力し地域の安全に尽くしたとして８月17日、小田駐在所に勤務する谷啓輔（けいすけ）さんの妻・享子（たかこ）さんに岸本吉生（よしお）愛媛県警察本部長から感謝状が贈られました。享子さんは、啓輔さんが不在の間、駐在所の留守を預かるほか、地域活動にも進んで参加。「これからも出来る限りのサポートをしていきたい」と話していました。

享子さん（中央）と啓輔さん（左から２番目）、岸本本部長（左端）▶

夏の小田深山渓谷で自然を満喫
小田深山ネイチャーランド2011

「小田深山ネイチャーランド2011」は８月28日、小田深山渓谷で開かれ、家族連れや高校生など約100人が、「安芸貞渕ボート探検」「暗闇の森」「せせらぎヨガ」など５つのアトラクションを体験しました。松山市から参加した家族は、「小田深山は初めてだけど、自然が多くて良い所。心身共にリフレッシュできた」と話していました。

渓流の音と涼やかな風を感じながら行う「せせらぎヨガ」▶

救急車は正しく使いましょう
大洲消防署内子支署「救急フェア」

大洲消防署内子支署（福岡俊博（としひろ）支署長）は９月６日、パルティフジ内子店で救急フェアを開きました。９月４～10日の救急週間にあわせ、救急車の適正利用の呼びかけや救命救急法の普及を目的に実施。同署員と女性消防団４人が、啓発チラシの配布やＡＥＤを使った心肺蘇生法体験、救急車の展示などを行いました。

買い物に訪れた人、一人一人に声を掛けてチラシを手渡す▶

トンネル内ではライトをつけて
内子町駐在所連絡協議会が看板を設置

内子町駐在所連絡協議会小田・大瀬・町並みブロックは９月７日、国道379・380号内のトンネル７カ所に自動車のライト点灯を呼びかける看板を設置しました。震災後、節電の影響で減灯されていることなどをきっかけに行ったもので、小田ブロック会長を務める一柳清志（きよし）さんは「安全運転への意識付けになれば」と話していました。

小田・大瀬・町並みブロックが連携して出入り口に看板を取り付け▶

明るく豊かな長寿社会を目指して
健康づくりと福祉のつどい2011

㊤食事バランス体験コーナー。実物大の食品サンプルを組み合わせて献立を考える　㊧生活習慣と胃腸の病気の関連について説明する宮岡済生会松山病院副院長

「健康づくりと福祉のつどい2011」（内子町・日本消化器病学会四国支部ほか主催）は９月10日、文化交流センタースバルで開かれ、約480人が参加しました。

今回のつどいでは、日本消化器病学会四国支部との共催により、生活習慣の見直しと改善、生活習慣病の予防を目的とした市民講座を開催。「生活習慣とおなか」をテーマに、宮岡弘明（ひろあき）済生会松山病院副院長、松浦文三（ぶんぞう）愛媛大学医学部教授、三宅映己（てるき）同助教などが講演し、「バランスの良い食事と適度な運動を心掛けて」と呼びかけていました。

この他、さまざまな食品サンプルを組み合わせて栄養バランスの良い献立を考えるコーナーや、血圧・骨密度・血管年齢などを測定する健康チェックコーナーなども設けられ、参加者は興味深く体験しながら自分の健康について考えていました。

昔ながらの豆腐を作ってみよう
長田地区で石臼豆腐作り体験

かつて使っていた石臼で大豆をひいてみせる健一さん

長田地区で９月10日、昔ながらの豆腐作り体験が行われ、町内の移住者など11家族が参加しました。

地域で受け継がれてきた生活の知恵などを学びたいと、同地区に移住した加藤毅（たけし）さんが中心となり地元の大森一繁（かずしげ）さんと共に企画。一繁さんの両親で40年前まで豆腐作りをしていた健一（けんいち）さん・マサヨさんから手ほどきを受けました。参加者は「作るのは大変だけど、格段においしい」と、その味わいを堪能していました。

自動車の近くでは遊ばないでね
くるみ保育園で「子ども安全教室」

横断歩道の正しい渡り方も練習

くるみ保育園（高橋幸（さち）園長）は９月12日、１～６歳の園児74人を対象に「子ども安全教室」を行いました。

同教室には、社会貢献活動の一環としてヤマト運輸㈱大洲支店（森正義（まさよし）支店長）が協力。道ばたでボール遊びをしたり自転車で車の前を横切ったりすることの危険性や、車からの死角などについて、寸劇を交えながら分かりやすく説明し、車の周りでは遊ばないように注意を呼びかけました。